

平成31年3月10日
「社会的孤立が招いた
8050問題」シンポジウム

NPO法人はあとびあ21

《 事業紹介 》

学校生活や社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども若者たちやご家族に対する支援

- 1、発達が心配な子どもたちの放課後サービス
- 2、不登校児童生徒たちの居場所、フリースクール
- 3、ひきこもる若者たちの居場所、相談場所
- 4、彼らを抱えるご家族の方々の相談場所
- 5、講演会開催



富山県射水市三ヶ2467

子ども若者支援センター フレンズ 代表者 理事長 高和洋子

NPO法人はあとびあ21

②

ひきこもり家庭の二つのパターン

①家族との関係が良好な場合

家庭内では会話があり、親子関係は良い
家事(料理、せんたく、そうじ)をしてくれる

↓
旅行、映画、コンサート、温泉

↓
家族と一緒に過ごす時間が持てる

↓
無理して外に出なくてもこのままでもいい



②家族との関係がよくない場合

会話がない
自室にこもる時間が長い
家族と意思疎通がうまくいかない
暴言を吐く、暴力をふるう

→ そこで、ご家族を支える第三者が重要(行政、地域、NPO、諸機関)

①

NPO法人はあとびあ21

ご家族の声

- 居場所、カフェ、休息所(ひきこもりについて理解している経営者)
- 親(自分たち)が孤立しないために、親の会を続けてほしい
- 不登校からひきこもりなので、もっと早く不登校の段階から手厚い支援がほしかった。いじめをなんとかしてほしい
- 不登校し始めの頃に無理に登校させず、休ませていれば、こんなに親への不信感が強くならなかったと思う
- それぞれの特性に沿った、きめ細かい支援をしてほしい(個別支援)
- ひきこもりに対する一般社会の理解がほしい
親が甘やかしたから、育て方が悪かったから、という目で見られるのが辛い。恥ずかしいことではないんだ、という理解を広めてほしい、地域での理解がほしい
- 診断書や手帳がなくても利用できる居場所
- ひきこもりの人でもアルバイト程度できる仕組みがほしい(ゆるやか就労)
- 支援するのに、年齢制限は設けないで
- 遠方でも同じ支援を受けられる

- 責めたくなくなってしまって、辛い
- 自分がうつになってしまって、眠れない
- 自分たちがいなくなったらどうなるうやろ・・・不安、その時はどうしたらいいのか？
- 家事をしてくれるので、必ず感謝の気持ちを伝えるようにしている
- こんな相談窓口があったらいいな
目立たない入口、夜間も開いている
話し声が漏れない



NPO法人はあとびあ21

②

本人の声

- 自分は生まれてこない方がよかったんじゃないか
- 親は否定ししかないのか
- 親にとってオレは荷物でしかない、いない方がいいんだ
- うつ病になったとき、父親から「自分の家系に精神病はいない、オレの子じゃない」と言われ死にたくなった
- 教師やプロとかの上から目線のカウンセリングや説教はいらん
- 聞いてくれるだけでいい
- 同じような人のいる場所がほしい・・・居場所
- 女性だけの場所なら行ける
- ひきこもりを分かってくれる人なら会ってもいい
- ひきこもりをおかしな人、怠けている人と特別視しないところ
- どうせ自分は何をやってもダメ
- 病気じゃないのに病院に行かされ、大量の薬を飲んでる。めまいや吐き気に悩まされる
- いつも「将来どうする？仕事したら？」と言われるのは恐怖
- 働かなくなったら、粗大ごみなのか
- 人と比較して「・・・だからあなたはダメなんだ」と親は言う。辛い
- 「もっとやれる」と追い詰められてきて、疲れた

- 「ありがとう」と言われたら、やっぱりうれしい
- ごはん作っているけど、楽しくなってきた
- 親が倒れた時は、しっかりせんなんと思った
- どうにかしたいけど、自分でもどうしたらいいのか分からん。でも家事なら
- 家事は自分の自由にさせてくれるから楽しい
- 人に会うのは面倒くさいけど、家でなら何かできる
- ひきこもらざるを得なくなった気持ちを分かってく
- ひきこもりたくなかったけれど、自分を守るために
そうせざるを得なかった
- 親が分かってくれない時は死にたかったけれど、今はそこまで思わない



NPO法人はあとびあ21

③

「親の会」からの声

- 自分とこだけかと思っていたらそうじゃなかった→子どもを客観的に見つめられるようになる
同じような状況の人は案外多いことが分かった
ex. 昼夜逆転・・・ガミガミ言わなくなった、責めなくなった
- いっぱい愚痴聞いてもらえてよかった・・・また前を向いていける
また、元気もらえた・・・元気になって帰られる
- 〇〇さんとこと、うちも同じやった・・・あきらめないでいこうと思う、希望が出てくる
一日中ゲーム
- 今まで責めてばかりやったけど・・・自分で気づかれる
「責めたらあかんね、だから暴力ふるうようになったんやね」・・・反省



<結果> 子どもさんに対する見つめ方が変わり、接し方を工夫され、やさしくなれる、責める気持ちが和らぐ。 親御さんの気づきは本人さんへの影響が大きい。
叱る、責める、否定する回数が減っていく。子どもさんの暴言・暴力が減る。親子関係がよくなっていく。

④

NPO法人はぁとびあ21

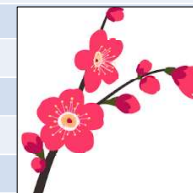
なぜ、声を上げられないのか

<当事者や家族側から>

- 自分の状況をあからさまに人に話すのに抵抗がある
- 世間体があり、できれば隠しておきたい、知られたくない
- 貧困が背景にあって外に出られない
- 相談に行くと、「どうしてこうなったのか、どうしてここまで放置していたのか」と責められるのでは行きたくなくなった
- 上から目線で事務的対応

<社会や制度面から>

- 自己責任論で怠けているんじゃないかという社会からの無理解と偏見が強く残っている
- 相談を受ける側に年齢制限がある
- とかく就労に焦点を当てた支援が目立つ
- 当事者目線に沿った支援が少ない
- 相談窓口にはひきこもりに詳しい担当者がいない、ひきこもり対応に習熟していない



⑤

NPO法人はぁとびあ21

<よりよい支援とは>

●傾聴	まず聞く ご家族の孤立を防ぐため 話し相手、聞き役
●気持ちを理解し、同じ目線に立つ	知られたくない気持ちを受けとめ、誰にも、いつでも起こりうる、恥ずかしいことではないことを伝える
●否定しない配慮	さり気なく
●一緒に楽しめるもの、人探し	ツールや人を紹介 囲碁、将棋、ゲーム、ギター、工作、手芸、お菓子作り、歌おどり
●情報提供(つなぎ役)	相談窓口(行政、NPOなど民間機関)や支援機関へつなぐ



⑥

NPO法人はぁとびあ21



ご清聴ありがとうございました。



NPO法人はぁとびあ21
理事長 高和洋子

NPO法人はぁとびあ21